

# センターだより

## 魅力ある女性部会への挑戦 「がマダム1000」誕生

公益社団法人浦都市シルバー人材センター（愛知県 理事 澤井宏依）



浦都市S.C.では、令和三年四月九日に女性部会「がマダム1000」の発足を開催

### センターの概要

愛知県の南東部に位置する浦都市は、風光明媚で気候温暖な住みやすいところです。人口は約八万人で、高齢化率は県内では上位となる二九・三％（令和二年浦都市人口及び世帯数統計資料）です。浦都市S.C.は、昭和五十八年九月三十日に、社団法人シルバー人材センター浦都市高齢者能力活用協会として設立し、改称と公益法人化を経て、現在の名称となりました。

### 女性会員拡大を目指す

女性会員に元気がないとセンター

「は活性化しないという信念の下、「眠れる女性の力を掘り起こす」ため、愛知県S.C.連合会（以下、連合会）では女性委員会を設置し、令和元年八月六日に開催された初代会合に、東三河の代表として参加しました。そして、県外のシルバー人材センターの視察に参加する中で、人生百年時代に、誰もが地域で安心して暮らすためには、「仕掛け人」が必要だ、という言葉に共感。「ならば私が仕掛け人になろう」と思いから、浦都市S.C.の女性理事四人と共に発起人となって、一年後に女性部会を立ち上げる！挑戦が始まったのです。



織詞U子さんが描いた公式キャラクター

### 「がマダム1000」の誕生

名称は、女性部会「がマダム1000」としました。「がマダム」は、生き生きとした知的で華やかな「がまこ」の女性をイメージ。「1000」には、早期に当センターの会員数を千人にしたいとの願いを込めたネーミングです。この段階（令和元年度）の会員数は、男女合わせて六百二十五人。女性会員であれば、誰でも女性部会のメンバーになれますが、未入会の女性市民にも広く呼び掛けることは欠かせません。

そこで、市内在住の漫画家・鶴飼U子さんが描いた「バラの花を手にした上品な女性の横顔」を公式キャラクターにしてPRに活用。

# センターだより



発足式の準備を行う「がマダム1000」の女性理事たち。写真上は垂れ幕作り、写真下は寄せ植え鉢作り



加えて、女性会員向けに料理教室、ハイキングと、さまざまなジャンルのイベントを企画しましたが、令和二年度はコロナ禍で、多くが延期となってしまいました。しかし、イベントを企画する中で、女性理事五人の結束が強まりました。活動の楽しみが共有できたことで、誰からともなく「発足を開催しよう」との声が上がり、次のステップへと進んでいったのです。

発足式の開催に先立って、垂れ幕や寄せ植え鉢など、手作り感謝のデコレーションを製作。六十歳以上の女性にアピールするため

### 四本の柱を活動計画に

人生百年時代の中で、自分が楽しいと思えるものを見つけて、さ

に、連合会の伊藤啓子会長をはじめ、浦都市市長や地元の名士などに列席を依頼しました。そして、令和三年四月九日、感染対策を徹底し、発足式を盛大に開催。会員を含む四十八人が見守る中、「がマダム1000」が第一歩を踏み出したのです。また、浦都市市長には、メンバーが集える場の提供など、「がマダム1000」の活動への支援も快話していただきました。

またさまざまなことに挑戦し、生きがいや健康維持を目指して、豊かな人生を歩んでもらうためのお手伝いをするのが、「がマダム1000」の目標です。

### 令和三年度は活動計画として、

- ①ガーデニング「お花植え隊」②ハイキング「遊び隊」③料理教室「一つ星クッキング」④スマホ教室「初級おぼえ隊」の四本を柱に、会員が講師となって会員同士のコミュニケーションを深める企画をしています。

### 「がマダム1000」の効果

令和二年度の会員数は七百二十八人。前年度に比べ増加率一五・七％（九十八人増）と過去最高の伸びとなり、中でも女性会員は二二％増の二百九十九人となりました。これは発起人である女性理事五人の活躍によって、事務局との連携が密になり、会員拡大への思いが一つになったことが大きな要因と考えています。

### 今後の課題

今後は四本の柱から、会員に喜んでもらえる企画を増やし、それぞれの柱を継承してくれるリーダーの発掘と育成が大きな課題だと考えます。

「がマダム1000」に入ると、就業だけではなくて何か楽しいこともやっているらしい！という口コミを、浦都市の女性市民に周知し、センターの会員拡大につなげていきたいと思っています。全国のセンターから視察に来てもらえるように、魅力と活気あふれる女性部会を確立していきます。